

Message from the Doctor 〈女性医師特集〉

特別企画 女性医師座談会 前編

Female Doctor's Round-table Talk

女性が医師として働くには、結婚、子育てと仕事の両立、キャリアアップなど、様々なハードルがあります。埼玉協同病院で働く女性医師の皆さんに、ざっくばらんに、やり甲斐、キャリア形成、子育てのことなどをお話いただきました。今号と次号の2回にわけて本音トークを紹介します。

Dr.J／1979年卒 内科 子ども2人

Dr.O／1990年卒 内科 子ども3人

Dr.M／2005年卒 内科 子ども3人（うち2人は双子）

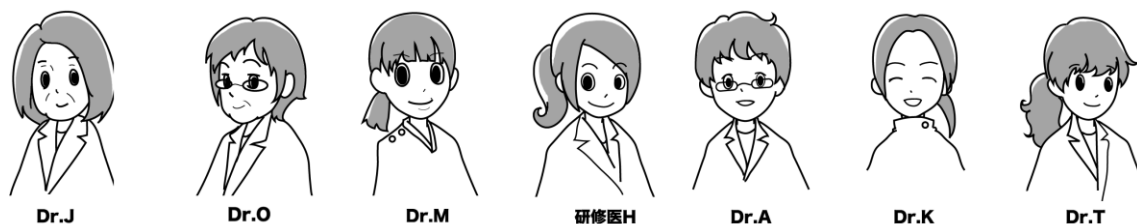
Dr.T／2006年卒 皮膚科 子ども1人

Dr.A／2008年卒 内科

Dr.K／2009年卒 内科 子ども2人

研修医H／2013年卒 初期研修医

プロフィールは2014年11月時点のものです。



医師を目指した理由

Dr.J／今日は医師を目指す女子学生の皆さんにエールを送る意味も込めて、先輩女性医師の皆さんに集まいただきました。私の頃は第1期の医学部ブームで、医学部に進学する女子学生が増え始めていました。私の上の学年は1学年4、5人だった女子が、私の学年では18人位に増え、その後も増え続けていますよね。私は英語が得意だったので、高校3年の秋までは文学部に進もうと思っていました（笑）。でも医学部を目指している友達に「それって何の役に立つの」と言われ、「じゃあ私もあなたと同じ医学部に進む」という感じで医学部を目指しました。高校3年になってからでしたので担任からは「気は確かか!？」と言われたのを覚えています。

Dr.O／私は、両親が医療生協に勤めていたのですが、母は看護師で、週に2回くらい当直をしていました。父は事務で、毎日朝早くから夜遅くまで医師体制を確保する仕事をしていました。週末は都内の大学に勤務のお願いに行くという生活をしていたので「過労死するんじゃないか」と子どもながらに心配でした。3人兄弟でしたが、母は育休も取らなかったの、祖父母と同居するまでは当直の時は診療所で一緒に寝泊まりし、職員さんにも子守をしてもらったりしてましたので、診療所で育ったようなものでした。学校が休みの時も母と患者さんのやりとりを処置室の片隅にじっと座って見聞きたり、訪問診療について行ったりと、医療が常に身近にありました。それと弟の体が弱かったので、患者さんの気持ちを感じることができたのも医師を選んだ要因です。

Dr.K／私は高校3年生で進路を考えた時に「人の役に立つ仕事をしたい」ということと、「手に職があった方がいいかな」ということで医学部進学を決めました。

Dr.M／私は子どもの頃から母が呪文のように「手に職を！」と繰り返していたことが大きいと思います。何かに頼って生きていくのではなく、自分で生計を立てるということを重視して医師を志しました。凄く偉い先生に憧れてとかではなく、子どもの頃に見てもらった開業医の先生たちが、私が持つ医師のイメージ像です。その中に当時としては珍しい女性の先生がいて、その方に「医者はやりがいいよ！」と言われたのも医師を目指したきっかけのひとつです。

研修医H／私も手に職をつけたいということが大きな理由です。

女性であることの「メリット」「デメリット」

Dr.K／高校が女子校だったこともありますが、医学部への進学を決めた時点では少なくとも女性であることのメリット、デメリットは意識していませんでした。一番初めに男女格差を感じたのが、医学部の6年生で入局先を選ぶ時でした。九州の大学だったのですが、入局説明会の時から男女格差が歴然としていました。男子にはどんどん声がかかるのに、女子は全然相手にもされないし、「説明会に来たければ来てもいいよ」というような感じでした。



Dr.J／もともと理屈っぽかったので医学部に行ったら「結構向いているかな？」と思いました。高校は共学で男性の比率が高いところで育ったので、女性であることは得ではあるけど損だとは思ったことは無かったです。でも医師になるあたりから「日本は女性が不利！」という現実直面しました。

Dr.M／私は大学入試の面接の時に「結婚したり、出産する時はどうするの？」と、男性だったら絶対にされない質問をされました。「何とかします」と言い切り大学に入りました。女性でも結婚に関しては医師として仕事をする上でデメリットは無いと思っていたのですが、妊娠・出産は大変だなと思いました。

Dr.J／臨床実習の時、ある泌尿器科の先生に「女なのに医者になってどうするんだ？女なんか役に立たないから今のうちに辞めてしまえ」と言われたことがあります。それを言われた時に「先生の女性観は、お母様や奥様も含め、これまで先生の周りにいた女性の影響で作られたものだと思います。私の知る限り、周りにきちんとした女性がいる男性の中にそういうことをいう人はいません」と言ってしまいました。私の後輩はそういうことを言われなくなったみたいです（笑）。

Dr.A／今のところ、男女格差は感じていません。女子医大のOBは生涯現役を貫くように教育されますので、仕事を辞めていない率が高いですね。女性医師は技術職だから、いったん仕事を中断しても戻る気になれば雇ってもらえる環境があるので恵まれていると思います。



女性医師として働くなら大学病院、市中病院どっち!?

Dr.M／妊娠すると業務の軽減などの配慮はある程度してもらえますが、周りの目もあり、難しいですね。当直をどうするのかとか、大学病院だと長期出張もありますし。大学病院に勤務している時も、当直回数の配慮はしてもらったのですが、そのかわりに朝5時出とか、夜も終わるまでいるようにしていました。妊娠していると通常業務でも放射線を浴びるようなものは他の先生にお願いしなくてはならないので大変でした。

Dr.J／私が入局した時の教授はとてもアカデミックな人で、「結婚が決まっていると聞いたんだけど、期限内に論文が書けないと第一内科として困るので、論文の目途が立つまでは子どもを産むのはちょっと待ってね」と申し訳なさそうに言われました。妊娠すると出張はどうするのか？育児休暇をどのくらいとるのか？ということが問題になります。私の時には女性医師は1割にも満たなかったのでかなり融通をきかせてくれました。しかし、こんなに女性医師が増えると、女性医師だから近くに出張というような配慮をするのは大変だと思います。

Dr.M／私はそれで大学の医局を退局という形になりました。教授は「考慮するから」と言っただけだったので…。

Dr.K／大学病院の入局説明会の時の教授も「妊娠した女医はいらないから」というようなことを平然と言うような、一昔前の考えの人でした。「女性が働くのはこんなに大変なんだ」と思いました。

Dr.J／埼玉協同病院はタイムカードがあり、夜の7時位になるとほとんどの人が帰宅していますが、大学病院だと永遠にいる人がいるんですね。夜7時から実験を始めて、朝そのまま回診に行くなんていう人がいるんです。なので「子供がいるから早く帰ります」とはなかなか言えない空気が大学病院にはありますよね。



Dr.J

Dr.M／医局にもよると思いますが、決まり事がキチンとしていない所で働くのは難しいですよ。

Dr.M／子どもが熱を出しても外来処置や外来問診が入っていると、大学病院ではまず「代わりはいないから出てこい」と言われました。埼玉協同病院では、臨機応変に対応してくれます。子どもが熱を出しても見てくれる人がいない時は、最後の手段で医局事務の方が見ていてくれます。大学病院では子どもを連れては行けなかったです。ベビーシッターさんが来られなくなった時、あとから出勤するはずだった夫が子どもを連れて来て、当直室で途方に暮れていたことを今でも思い出します。

Dr.J／O先生は研修医時代から医療生協の病院にいらしたので、大学の医局とは少し違うと思うのですが、いかがでしたか？

Dr.O／就職を決める時に考えたのは大学病院だと出張が多く、勤務先も自分で決められないということです。先輩医師からは「女性医師に対する評価は厳しいので、医師として、妻として、母として3倍頑張っても、男性の目からは一人前に見てもらえないから相当に頑張らないとだめだ」とずっと言われていました。私は埼玉を出ることは考えていなかったのですが、その時点で大学病院は選択肢から外しました。医療生協はご夫婦で就職される方も多かったのですが、女性が家庭と仕事を両立するには良い環境だと聞いていました。実際に就職してみて、その通りだったので良かったです。

Dr.M／大学の医局だと、卒業後10年位の間には周りの女性医師はどんどん病棟を抜けていきます。残っている友人は、病棟勤務が続けられたとしても将来のことを考えると、とくにロールモデルもなく、どうしていいか困っていると言っていました。

※次号に続く

Message from the Doctor 〈女性医師特集〉

女性医師座談会 後編

Female Doctor's Round-table Talk

子育て、家事との両立

Dr.O／女性というだけで働き方の選択肢が狭まることは確かにあります。産休で同僚の先生に迷惑をかけることもあり、「人よりも頑張らなくてはい」というプレッシャーがありました。医師であると同時に家庭人でもあるので、家族の協力が不可欠だと思います。家庭と仕事を両立するのは難しいのですが、やるしかないですね！

Dr.O



Dr.K／生協宅配も個別に届けてくれるなどいいサービスがたくさんあるので、利用しています。今は食洗機や洗濯乾燥機、ロボット掃除機などがあるので、お金を掛ければ家事はある程度楽になるとは思います。

Dr.J／子どもの具合が悪くなった時に夫が休んでくれたことはありますか？

全員／無いですね。

Dr.O／一度もないです。「どうしても休めないんだけど」と言っても、子どもが小さい頃は決まって「仕事辞めたら？」「パートにしたら？」と言われて終了。

Dr.J／基本的には夫を当てにすると腹が立つので別の方法を考えました。私はベビーシッターさんを頼みましたね。

Dr.M／私もハウスキーパーを頼みました。

Dr.T

Dr.T／私は夫が家に他人を入れたくないというので頼みませんでした。

Dr.J／私が卒業したての頃は大学病院は人が多かったのですが、突然休んでもカバーする余力があったんです。今は本当にギリギリの人数なので、みんなあまり優しくなれないようですね。

私は埼玉協同病院に来て3年半ですが、ここの病院の女性医師はみんな優秀で頑張り屋です。だから「子供の具合が悪いので休みたい」という申し出がある時に「普段頑張っているからいいよ」と言えるのだと思います。



Dr.J／T先生は学生の時に出産されたんですよね。

Dr.T／5年生の時でした。これから国試に向かって勉強が佳境に入る時だったので大変でしたね。「勉強と子育てをどうやったらうまくできるのか？」と考えていた時に、乳児院を紹介してもらいました。BSLで日赤を回った時に、「私の子どもと同じ時期に産まれた赤ちゃんがまだいる」なんてこともあったり。乳児院に2カ月見てもらって、3カ月目からは保育園に入れましたが、かなりハードでしたね。

Dr.J／保育園も病気をしたら預ってくれませんし、迎えに行く時間が決まっているのも厳しいですね。

Dr.O／私は医局の先輩に口添えして頂き、子ども3人とも出産予定日が分かった時点で保育園に申し込んで、何とか入れました。

Dr.J／埼玉協同病院は院内に保育所があるから助かりますよね。

Dr.K／私は長男が生まれたのと同時に保育園を探し始めましたが、なかなか見つからなくて大変でした。保育園が見つからない場合に、とりあえずは保育所で預ってもらえるので良いですね。

Dr.J／女性医師に対する支援という意味からすると、医療生協さいたまの病院は進んでいると思います。埼玉県医師会の主催で、女性医師問題を考えるという討論会が開かれたのですが、「時短をどうする」「院内保育所があった方がいい」「どうしたら仕事を続けられるか」ということが話題になっていましたから。あとは院内に病児保育があればいいと思いますね。

Dr.O／子どもはたいてい夜中から明け方に熱を出すので、診療所に勤務していた頃は明け方に実家に電話し、とりあえず協同病院の医局に預けて、2～3時間かけて父か母に迎えに来てもらったり。具合が悪いのにあちこち行くのはかわいそうですから、病児保育は必要だと思います。

Dr.M／子どもがいつも元気でいつでも保育園に行けて、仕事がちっと終わればどうってことはないんですが、なかなかそうもいかないですからね。

Dr.J／夫や同期の人達とずっと同じように頑張ってきて同じ場所にいるのに「どうして私だけキャリアをストップしなければならぬの？」と思ったことがあります。これは出産後にみんなが思うことですよ。出口のないトンネルにいるような感じで。でもそこを乗り越えないと……。

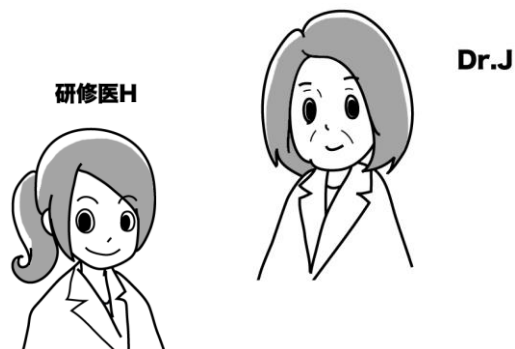
Dr.M／大学病院の医局時代はチームで仕事をしていたので、周りが一生懸命に作業している最中に、「すみません、お先に」と言って帰るのは、チームの一員としてちゃんと役に立っていないんじゃないか、周りに迷惑をかけているんじゃないか、というジレンマがありました。子どもがいるから早く帰っていいよと理解してくれている方もいたのですが、やはり周囲の目が気になっていました。

Dr.J／結局、結婚まではどうってことはないってことですね。

妊娠中はコンディションが良ければまあ大丈夫。大変なのは子どもが生まれてからということですね。

H先生はこれからそういう時期が来るのですが、もし旦那さんに「専業主婦になってほしい」と言われたらどうしますか？

H／そんなこと言う人とは結婚しません（笑）。



自分のスタイルでキャリアを積む

Dr.J／キャリア形成という面からみると、マイペースで走り続けている男性医師に比べると、明らかに仕事を減速しなければいけない所があると思いますが、その辺はいかがですか？

Dr.O／私は研修が終わって一息してから結婚しました。出産後は当直免除になり、消化器内視鏡の分野を中心に仕事をしました。3人目の産休明けから診療所に勤務するようになりました。普通は3～4年のローテーションですが、私は診療所に8年と比較的長くいました。医師としての立ち位置を考える時期でもあり、ほぼ毎日外来だと「絶対急には休めない」というプレッシャーで大変でしたが、健診から往診まで経験したことは良かったと思っています。

Dr.T／学生の時は夫と学年が一つずれていた分、少し楽でした。卒試・国試は子どもが保育園にいる間は勉強できました。やっぱり働き始めてからが大変でしたね。同じように研修をしても夫の方が何でも先にできるようになっている気がしました。他にも、指導医に「十分研修に打ち込めるように、子育てのことちょっと考えたら」というようなことを言われることもあって、それが悔しかったですね。

Dr.J／医学博士を取る、専門医を取るとなった時に、同期の男性医師にはついていけず、遅れてしまうということもあったと思います。腕を磨くのに研修に行きたいと言っても、子どもがいればそんなに簡単ではありません。私も留学したかったのですが、「留学はちょっと」なんてこともありました。そのように今

は我慢しているけど、やりたいこと、やりたかったことはあります。

Dr.T/専門医取得に必要な皮膚科の単位と論文は集めきったのですが「皮膚科の中でこれが得意」というのが欲しかったこともあり、もうちょっと大学にいられば良かったのかなと思うことがあります。

Dr.J/それはこれからもチャンスがありますよね。M先生はどうですか？

Dr.M/もちろん専門医などのスペシャリティは持ちたいですが、減速させられたとか自分が損をしているとは思わないです。子どもを持つタイミングはなかなか計れないですし、子どもを産めることは女性の特権だと思います。家族というのはかけがえのないものです。家族をもつことで、医師としてのキャリア形成に多少時間がかかっても、歩幅が小さくても、自分が患者さんと向き合っていくスタイルを確立していきたいです。



Dr.M

Dr.J/A先生はこれからですが、どうですか？

Dr.A/何も考えないで仕事ができているこの時間は幸せなんだと思いますね。子どもが生まれる前にプライマリケア専門医や、総合内科専門医の認定試験を受けるために必要なレポートを全部済ませておきたいです。女性医師は病棟の主治医を担当できる期間が限られていて、子どもが生まれたりしたら難しいというのは致し方ないのかなと思っています。友人の中には最初から9時から5時のパート医師でもいいという人もいますが、医師としてのキャリア形成を重要だと思う友人は、結婚して子どもを作るか悩んでいます。

Dr.J/H先生のキャリアプランは？

研修医 H/来年からは後期研修が始まりますが、専門医を取るのに最短でも4年かかります。私は、子どもを持つのは専門医を取ってからの方がいいかなと思っているのですが、病院にとっては医師としてある程度使えるようになってから休まれるより、研修医のうちの方がいいのかなと、思うこともあります。

Dr.O/医療生協では、出産から1年間は時短勤務ができ、育休は最長3年取ることが可能です。でも女性医師の場合は長く休むのは不安と思う人が多いのか、休むのは平均して3カ月～半年くらいですね。女性がしっかりと育児休暇を取れることも大切ですが、技術職にとってはむしろ育児をしっかりサポートしてくれる体制を作ることの方が重要だと思っています。

Dr.M/税金を使って医師になっているのですから、何としても医師を続けて頑張るべきだと思います。国公立はもちろん私立の医学部でも、国から学生1人あたり6年間で3000～4000万円は補助が出ているのですから、辞めるくらいなら「税金を返せ！」ということになりますよね。子どもを生んでからもプロフェッショナルとして自分が修得したことを社会に還元する義務があると思います。

女子学生の皆さんへのメッセージ

女性医師になるということを過度に意識する必要はありません。学生の間はしっかりと勉強し、働き始めてからは誠実に仕事をし、その姿勢を認められることが重要だと思います。そのためにも一生懸命勉強して実力を付けておくことが大切です。また、若いうちは意識しないことかもしれませんが、一貫して常勤職につき、職歴がつながることが非常に重要です。医療生協さいたまでは、本人の努力次第で自分が希望する外部研修を実現することができます。女性医師のロールモデルがたくさんいるので、しっかり仕事を続けたい女性には、将来設計をイメージしやすいと思います。

※埼玉協同病院では、2015年度から病児保育も始めました。